【一般演題Ⅰ】

経口的内視鏡診療に使用するマウスピースの計画外離脱予防を固定バンドの素材で検証する

九州大学病院放射線部・光学医療診療部[1)]
九州大学病院光学医療診療部[2)]
◯馬場　禎浩[1)]、石村　徳彦[1)]、安養寺美会子[1)]
蓑田　洋介[2)]、藤岡　　審[2)]、仲田　興平[2)]

【はじめに】

上部内視鏡診療中のマウスピース離脱（以下、離脱）は、歯牙・口腔周囲の損傷や内視鏡の損傷が発生する。我々は、伸縮性のある固定バンド（以下、バンド）によるマウスピース固定では、バンドの不均等な伸展が離脱につながる可能性について報告した。離脱の原因は、バンドの素材による伸縮性が推測され、今回３種類のバンドⒶ高伸縮素材群、Ⓑ低伸縮素材群、Ⓒ非伸縮素材群を用いて、マウスピースの離脱状況を検証した。

【目的】

伸縮性が異なる素材のバンドを装着することで離脱予防効果が得られるのか検証する。

【対象、方法】

１名の医療従事者が、対象者（内視鏡診療に従事する医療従事者）10名に伸縮性の異なるバンドⒶトップマウスピース®バンド、ⒷMMIチューブホルダーパーシー®ヘッドストラップ、Ⓒマジックテープ®でマウスピースを装着する。次に意図的にマウスピースを口から押出すよう試みて、①離脱率、②離脱に要した時間、③離脱困難感、④装着痛、⑤締付感の５項目を評価する。③④⑤は10段階のスコアを用いたアンケート調査で評価し、①はχ^2検定 ②～⑤はマンホイットニーU検定を用いた。

【倫理的配慮】

A病院観察研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：23032-00）。

【結果】

離脱率は、Ⓐ100%Ⓑ100%Ⓒ80%で、有意差は認めず（P =0.084）、Ⓒのみ２名離脱しなかった。離脱に要した時間は、平均Ⓐ1.4秒 Ⓑ4.1秒 Ⓒ11.6秒で、Ⓐと比較しⒷⒸは有意に時間を要した（P <0.05）。離脱困難感は、平均値Ⓐ1.0 Ⓑ3.2 Ⓒ6.3で、Ⓐと比較しⒷⒸは有意に困難感があった（P <0.05）。装着痛は、平均値Ⓐ0.4 Ⓑ0.6 Ⓒ1.8で有意差はなかった。締付感は、平均値Ⓐ1.4 Ⓑ4.1 Ⓒ5.5で、Ⓐと比較しⒷⒸは有意に締付感があった（P <0.05）。

【考察】

伸縮性素材群に比べ非伸縮性素材群は、離脱までの時間が長くなる事から、離脱要因の一つとして、バンドの素材が考えられる。伸縮性により、診療中に患者がマウスピースを突発的に押出すと、バンドが伸びて離脱することが示唆された。非伸縮性素材群は、締付感はあり弱い痛みを感じるが、離脱困難感は高く離脱予防効果があると考えられる。今後はスコープ挿入状況などの診療条件下に広げて検証を行う必要がある。

【結語】

高伸縮性素材のバンドは離脱予防が難しく、低伸縮素材、非伸縮性素材のバンドは、離脱予防効果を高める可能性が期待できる。

【連絡先：〒812-8582　福岡県福岡市東区馬出3丁目1-1
九州大学病院　光学医療診療部　TEL　092-642-5766】